



# 認知症傾向のある受刑者の概数調査（概要）

## 1 調査概要

- 目的 認知症傾向のある受刑者の推計数の算出
- 調査対象者 平成26年末時点で60歳以上の受刑者のうち、層別無作為抽出法により選定した451人
- 調査時期 平成27年1月20日～2月23日
- 調査方法 刑事施設職員による改訂長谷川式簡易知能評価スケール（以下「HDS-R」という。）の実施

※ HDS-R：記憶力や計算能力等をチェックすることによる、認知症を見極めるための簡単な心理検査。30点満点で、20点以下で認知症が疑われる。

- 定義 本調査における「認知症傾向のある受刑者」とは、HDS-Rの得点が20点以下であった者を指し、医師による診断の有無や、他の疾病・障害による認知機能の低下による区別は行っていない。

## 2 調査結果

- 調査対象者のうち、HDS-Rが実施できた者は429人  
そのうち、59人の者がHDS-R20点以下  
⇒ 60歳以上の受刑者のうち、認知症傾向のある受刑者はおよそ14%（13.8%）で、全国におよそ1,300人いると推計  
⇒ 65歳以上の調査対象者の結果を分析すると、認知症傾向のある受刑者はおよそ17%（16.7%）で、全国におよそ1,100人いると推計

【参考】65歳以上の高齢者における認知症の全国有病率推定値は15%

※ 「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」（平成23年度～平成24年度、厚生労働科学研究費補助金認知症対策総合研究事業、筑波大学、朝田）による。

- 年齢階級別の認知症傾向のある受刑者の比率及び推定人数

	年齢階級				
	60-64	65-69	70-74	75-79	80-
認知症傾向のある受刑者の比率 （本調査結果）	6.5%	10.2%	21.6%	25.6%	28.6%
60歳以上の受刑者数 9,710人 （平成27年6月1日現在 矯正局調べ）	3,430	3,219	1,776	887	398
認知症傾向のある受刑者の推定人数	221	328	383	227	114